

よかったって思った、仕事場を見せられて。普通は

見られへんもんな、親の仕事って

語り手 松濤 美智子（立命館生活協同組合／卒業生保護者）

聞き手 森本 詩史

*

息子さんの中学受験

―松濤さんはいつから食堂で働かれているんですか？

ここの中学がはじまった時です。始まってからやから、もうすぐで私も二〇年です。

―息子さんが三期生なんですよ。

そう。中人（生）の一番初めです。今でも「かがやき入試」ってあるんですか？

―あります。

（息子は）一期生やから前の人（前例）がないでしょ？何点取ったら合格とかな。だから、「どうする、どうする」って言って（笑）。普通に地元の中学にいくと思ってたから、「え？（立命館守山中学校）受けるのー？」みたいな感じで。「地元の友達と離れるよ」って。

うちの地元はずっと、幼小中一緒に出入りがないの。三クラスか四クラス全学年あって、出入りが少なくて。やから、みんな顔なじみの友達。中学卒業まで。幼稚園、保育園から中学まで、クラス替えはあっても、一三〇人くらいがずっと一塊でいるようなところやから、「そこからぽっと離れるよ」って。でも（息子は）全然平気やった。「ああええよ」みたいな感じでした（笑）。

―受験には反対でしたか？

反対はせーへんかった。家族も「行かしてあげーな」って。

―息子さんはスポーツされてたんですか？

スポーツは全然してなかった。だから、この学校で野球部に入りたいたか言ってたけど、。野球部なかったんよ。中学も高校もなかった、初めのほうは。

―野球部ができてからは野球部に入ったんですか？

いいえ。でも、質問してはったわ。受験の面接の時に「野球部はできますか？」って（笑）。で、入学してからハンドボールに入った。昔はね、ハンドボール女子が強かった。守女（守山市立守山女子高等学校）が、その流れで今もハンドボール部がある。制服は、今のと違う制服があったんやけど、守女の人たちがまだ高校生で制服着るから、それに寄せて作ってはったみたい。

―今は変わってるんですよ。

そう。（今は）いろいろあるやん？シャツの色とか。そんなんじゃない。もう一通りしかない。女の子は中学はキュロット。ブレザーはもつと緑みたいな青みたいな色。で、高校はグレーでした。それが守女とよく似てる感じ。

―守女？

守女はね、ここ（立命館守山）は前、守山市立守山女子高等学校っていうの。それを立命館にしはったの。（守女は）守山の駅からちょっと行った所に校舎があって、今もちよつと違う形で残ってるけど。立命に変わって、初めは高校から始まった。中学はなかったです。四年？くらいして中学もできて。それで、こっち（三宅町）に移転してきて、中学も受け入れた。

まだ右も左もわからない生徒たち

―お子さんは息子さんだけですか？

ううん。上に女の子がいるの。四歳上の。その学年の時からこの高校ができたんやけど、うちの上の女の子は受けなかった(笑)。やから(息子の) 四学年上が一番初めやね。みんな可愛かったわね。

―どういうところが可愛かったんですか？

初めの頃は、食堂とかで、どうしたらいいのかみんな分からへんかったみたい。今は、食堂とかに来てめちゃんと整然と並んではんねん。ずーっと一列に長い列ができてるでしょ？で、こつちが尋ねなかつたらね、注文してくれへんねん(笑)。「何されます？」って、尋ねな言わはらんねん(笑)。はじめの頃は、もう並ぶか並ばへんかわからへんから(笑)。「なんとか丼」とか「キツネうどん」とか、みんながわーって言わはんねん(笑)。

―列もなしで、みんながわーって注文してたんですね。

「並びやー！」って言って(笑)。だんだん列ができてきた。そこらへんで踊ってるような女の子もいた(笑)。今はすごいっぱいやろ、人が。中学で一期生だけやった頃って、一学年しか人がいないからガラガラ！その時、高校は三学年揃ってたけど、中学の一期生が、中学のお昼の時間に来るのは(二期生の) 一学年だけだった。一年間、すごいスペースがあった(笑)。みんなすごい自由な感じでやってはったわ。四月か五月ぐらいに、(カフェテリアを指差して) その大きい扉のガラスを、男の子がバーンって割ってもうて、すごかったな、あの時は。それから一回も割れてへん。それから二〇年ぐらい経つんやなあ。―長いですね。

息子が入学した時、中学のクラス分けはなかったのよ。FT(フロンティアコース)とかAM(アカデメイアコース)とかも。中三の後半になってから、他の大学を受験するクラスを作ります、って急に言われてね。「えー、なんじやこりや」って思ってた。それでテストをしますってなったの。

―そのクラスに行きたい人だけテストを受けるんですか？

そうよ。テストで上がるっていう。(息子が) そんなテストなんて何も勉強してへんのに、担任の先生が、「松濤くん受けないの？」って。それで「はあ。受けます」って言って(笑)。でもなんもしてへんかったから、その中に入れへんかってん。それで普通のクラスに入ってた(笑)。そういうふうにして今のFTが始まった。息子らの時は、(高校は) ハクラスやったんや。普通の、受験とかない内部進学のカラスが七クラスと、大学を受験する人らが一クラス。

―今も同じです！先生たちもよく食堂にいりますよね。交流があったりするんですか？

だいぶ前、息子が在学してる時に、ある先生と話してん。「いい人いるの？」って聞いたら、「います」って(笑)。その後、結婚されて。

*

旦那さんとの出会い

―松濤さんは結婚した時、どんな感じだったんですか？

私ですか(笑)。

―いつ結婚されたんですか？

二八歳の頃かな。当時にしたら遅いくらいかもしれない。旦那さんも同い年。

―同級生ですか？

違うのよ。私は滋賀県の野洲。だけど夫は、今は長浜市になつて居けれども、東浅井郡っていうところ。

―長浜の昔の名前ですか？

長浜市の長浜は長浜であつたけど、市町村合併が何年前にあって。「平成の大合併」っていうのがあつたでしょ（笑）。それで、横にあつた東浅井郡がなくなつて長浜市と一緒になつたとかそういうことがあつたの。夫はその人です。

―どうやって出会つたんですか？

（夫は）私の友達のお父さんと一緒に職場やつてね。その友達がそこ（職場近く）に帰るのに私も一緒について行つたの。そしたら、「同じ滋賀県の人いはるわ！」って言ってくれて、そこで知り合つた。北海道にいはつたんですよ。ロマンチックやと思うやろ？全然よ！（旦那は）根室にいました。根室は、こちら辺と違つて北方領土に対する熱が違ふやんか。返還の横断幕があつたりしてね。そこに（夫は）いはつて、一緒に連れて帰つてきたんですよ（笑）。で、こつちに養子に来てくれはつて、私のところに。それでもう、ちゃちゃちゃつと結婚してしまいました。もっと夢がある話がええか（笑）。

*

吹奏楽に熱中した学生時代

―松濤さん、学生の頃はどんなだったんですか？

高校生の時はね、吹奏楽してたんです。でも吹奏楽っていつても、吹くでもなく、打楽器やつて、楽しかったです（笑）。そればかりしてました。クラブしか覚えてない（笑）。勉強なんて全然してなかった。

―友達との思い出ありますか？

クラブやな。吹奏楽の夏合宿、学校で泊まるところがあつて。ご飯も当番決めて、みんなで作り合う。近くの銭湯に行つて。それが楽しかったなあ。楽しかったのはその思い出。もうあとはひたすら太鼓叩いてました（笑）。その人たちは今でも交流がある。メールしたりね。

*

変わらない日々を過ごした幼少期

―松濤さんの小さい頃はどんな生活でしたか？

小学校とかですか？何してたんやろ。学校までが遠くてバス通学やつたのね。バスで小学校まで送迎やつたのね。で、一バスに全員乗れないから、一ヶ月ごとに早番遅番があつて、一月が早番やつたら、二月は遅番。でもこの早い月なんかね、行つてから一時間以上あんねん！クラスに行くまでに。その間に、バスは遅番の人を迎えに行つてはるわけやけど。早く着いたら、ひたすらみんなで鬼ごつことかかくれんぼ。それがもうヘトヘトになるまで。学校始まつてないけど（笑）。もう思いっきり走り回つて、隠れて。それが面白かつたけど。エネルギーあれで使つてたよね、朝から。それでお昼は給食やつて。

私たちの地域は中学校も給食なんです。給食センターから運ばれてるから、幼小中同じものを食べてるのね。あと、ずっとクラスが、小学校やつたら六年間同じ人でぐるぐる回ってるから、同じ（笑）。何にも変わらへん。先生が珍しいぐらいで（笑）。

―先生は変わるんですか？

先生は一、二年が一緒、三、四年が一緒、五、六年が一緒。二年に一回しか変わらないし。全然変わらへんよね。なんかつまらんね（笑）。それで中学に行つても、一年ごとにクラス替えはあるけど、全

然新鮮じゃなくて、「あんたらは井の中の蛙やから、高校行ったら、全然知らん人がたくさんいて大変だよ」って言われてたな。「バカにされるよ、田舎者やから」って言われてました(笑)。

*

息子の面白い発言

―子育ての中で面白かったことありますか？

私がほら、(息子と)一緒に(食堂の仕事に)入ったの。一緒に入学したの、ここに。息子は、私の外で働いてる姿って見たことないじゃないですか。時々食べに来るわけよ。お昼に友達と。私が働いてるところを見るやろ(笑)。それで家帰って、「お母さんってあんなに早く動けんねんな」って言われて(笑)。私、ずっと家でダラーンとしてたんだ(笑)。もう、真剣な顔で、本気の発言やんって(笑)。そう見えてたんやって(笑)。「う、うん」としか言えへんかった(笑)。面白いでしょ？ 感心された。「そうやね、私早く動けるのよ(笑)」よかつたって思った、仕事場を見せられて。普通は見られへんもんな、親の仕事って。よかつた(笑)。男の子は優しいよな。可愛らしいし、いつまで経っても。彼女ができるまでかな。黙って付き合ってたとは思うねん、うちの息子も。

一番初めにね、中一の時、三対三でデートしはってん。もう嫌やつたわ(笑)。「え、何この学校」ってなったわ(笑)。誰が発案したの(笑)。ちっさなかわいい男の子を誰がたぶらかすの(笑)！(デートの日)野洲駅までは車で送っていて、どんな子やったかは見えへんかった……。でも知ってた、みんなここ(食堂)に来はる人たちやし。でも、やっぱり中一の時は女の子がお姉さんやな。男の子よりも。うち(息子)なんかまだ小学生みたいなもんや(笑)。(女の子は)子供や

けどもお姉さんやね。(息子の)彼女は、私が知ってる限りはね、高校二年くらいかな、三年の時は確実にいた。今はもういらっしやらないけどね、先生が教えてくれはんのですね(笑)。「松濤くんね、『あの子と付き合ってる』って言ってましたよ」って。言わんでええ、先生(笑)。私、もうほっといてほしいですって(笑)。「(息子が)なんかしてましたよ」とか言って来はんねん(笑)、食堂に食べに来る時。で、もう卒業してから、大学に入ってしばらくしてから、「松濤くん、別れたって言ってましたよ」って(笑)。もうええっちゅうねん(笑)！私は「そうですか、やっぱりね」って言って(笑)。そういうこと言わはる、先生が。面白いやろ。いや、名前忘れたけど。ありがたいのやら、ほっといてほしいのやらで、半々な気持ちでした(笑)。面白い人でした。

*

人よりも長かった大学時代

―松濤さんの高校卒業後はどんな生活でしたか？

私、高校を卒業してね、短大に入っただけです。幼児教育の。電車乗り換えて京都から行くところやねんけどな。でも、私違う勉強しようと思つて、また大学行つたの。京都市内の違う大学に。で、卒業した。やから結構長いこと大学にいてた。二年と四年で。途中で編入ができたので。一年生からやり直しました。で、幼児教育勉強して、その後、違う大学に行つて、国語の教師の免許と、もう一つ浄土真宗大谷派の教師資格っていうのがあるんだけどね、それを取つたの。お坊さんになる資格ね。―国語教員されたことありますか？

教員したことないんですよ(笑)。免許の資格だけ取つて。就職も

寺関係に入ったからね。

―食堂で働くまでは、寺関係のお仕事ですか？

そこはね、結婚して、しばらくして、もう辞めて。あと子供ができ、もうずっと子育てに専念したって言ったらなんやけど（笑）。家にいて。で、もうここ（食堂）。もうお姉ちゃんも高校入ったし、下の子と一緒にここ（立命館守山）に入っちゃえと思って（笑）。そんな人誰もおらへんかった（笑）。私だけやった、一緒に入ってくる人なんて。結構みんな嫌がるよな、子供が。黙ってたから分かんて、思ってたけど、でもすぐ分かる。バレたわ、みんな（生徒たち）に。名札かな（笑）。

―松濤さん、一番長いってことですよ。

すごい働きやすい職場なんやろうね、きつとね。空気がいいんやろうね。（現在も食堂で働かれている方の中）七人は一緒に入った人よ。あと、ちよつと若い人が今二人おられるけど。でも、私よりもっと年配の方もおられたけど、さすがに、ほらね、体がきついか、もう十分働いたから、っていう感じで辞めはったから。結局もう私が一番年上になっちゃって、今年。同い年の人もいるけど。びつくりした。一番年上のお姉さんになっちゃった（笑）。

*

結婚生活での思い出

―結婚生活で心に残ったエピソードはありますか？

苦手な分野ですけど（笑）。なんかも子供できてからは必死というか、子育てで、そのことしかなかったし。夫と二人だけで何かするっていうことはなかったかもしれない。子どもたちと旅行行くとか、家の行事とかで、おじいちゃんおばあちゃん含めて何かするとか。新婚旅

行はカナダに行ったけど、ナイアガラの滝しか覚えてない（笑）。古いお城みたいところに泊まった時に、夫がドアをガツと開けたら、ドアノブごと抜けたとか。添乗員の人に困った顔された（笑）。そういうことは覚えてるけど。

印象に残ったことかあ。やつぱり結婚してみたら、人って違うんやなって思いました（笑）。多分相手もそう思ってるだろう。「ええ、そうだったんだ」と思うことがまあありました。

―どんなことがあったんですか？

悪口ばかりになるかも（笑）。生まれて初めて人の舌打ちを聞いたとか（笑）。そんなことかな。笑えるやろ（笑）。なにかいいところないかな。ちよつと待ってね、考えるね。

うーんと、車の運転は何時間させても大丈夫です（笑）。車運転してくれる人、助かるね。お姉ちゃんをよく迎えに行ってたわ、そういえば。下の子はそんなことなかったけど、お姉ちゃんバンドやってたりしてたから、すごい変な時間に部屋（ライブハウス）借りるのね。こんな遅い時間に娘を一人帰せへんやんか（笑）。朝とか、夜の二時とか。そんでまた次が始まるからって、迎えに行ったりして。変な時間に車出してくれて、それは助かりました。（いいところ）見つけたあ。よかった（笑）。

―最近の悩みはありますか？

やつぱりね、健康かな、健康のこと。自分の健康もそうやけど、親とか……。みんなの健康のことがすごく不安ですね。九〇歳の母やから、ある程度、老化は仕方ないことね。老化は仕方ないけど、あんまり辛い思いしてるのもかわいそうやなと、最近では思ってます。

楽器や合唱が最近の楽しみ

―最近は何か（楽しいこと）やられていますか？

私合唱してるのよ。

―いつからですか？

合唱団が結成されたのが、息子が中三になった頃からやから、十七年とか、それくらいです。

P T Aのね、コーラスがあるんですよ。知らんでしょう？ そこ（コミュニティセンター）で練習したりしてるんですよ。

―最近もやっていますか？

うん。最近もやっています。最近ってね、暑い間は休むね（笑）。ゆるいゆるい（笑）。市民ホールで、四月に発表会いうのか、コンサートいうのか。守山市音楽連盟っていうのがあって、そこに加入している合唱団なんかに参加する。そういうのも楽しいね。それもね年長やわ、やつぱり（笑）。すごいなあ。（聞き手のことを）若いと思ってたなら、みんな高校生やねんな（笑）。息子と接するのとおんなじ感覚で喋ってるんやけど、全然違うよね。（年齢は）倍ほど違うよね。先生も若い人多いよね。若い人増えたなあ。

なんの話だっけ？ 楽しいことか。お琴もね、やりたい！もう一回。お琴と三味線。またやりたいです。元気で長生きしたいです。

【感想】

立命館守山創立当初から食堂で、生徒たちや先生方を見守ってきた松濤さんだからこそ気づける、学校の変化や、人との温かい交流について聞くことができ、とても貴重な機会でした。また、お話を通して、二〇年という学校の歩みの長さや、そこに通っていた人々のつながりを実感することができました。この学校の一員として、そういった人の温かみや、面白みを大切にしていきたいです。



右：語り手 松濤美智子さん

左：聞き手 森本 詩史